

大月のいいところフォトコンテスト2024

入選作品紹介

●最優秀賞 (1点)

「雪花咲く猿橋」(新猿橋) 佐藤 知津夫 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和4年2月10日 7:10]

カメラ [Canon EOS 5D]

レンズ [タムロン ASPHERICAL XR 28-300mm]

フィルター [PL]

シャッタースピード [1/15秒] 絞り [F16]



【講評】

大月市内で最も有名な景勝地である猿橋は、過去に相当数の写真が撮影され、発表されてきたと思われます。このような有名な場所で他の写真よりいかに良い写真を撮影するかがコンテストに競り勝つ要件かと思えます。この写真の作者も色々アイデアを考えた末、この雪日の写真に繋がっていると思われます。安定感ある構図でフレーミングされ、中央の川面のテカリ度合いを偏向フィルターでコントロールし、降雪のスピードに合わせたシャッター速度を選択して雪が降る様子を見事に表現しています。静かな雪の日に動きを加えた表現が素晴らしいと思います。

●大月市長賞 (1点)

「秋色桂川」(猿橋町 宮下橋) 原川 哲仁 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和4年11月17日 9:06]

カメラ [FUJIFILM GFX50s II]

レンズ [GF20-35 φF4]

フィルター [なし]

シャッタースピード [1/80 秒] 絞り [F11]



【講評】

秋晴の日、大月の風景全てを一枚で表現された写真です。山・川・紅葉の木々・建物・高速道路等、自然と人工物が共存する現在の大大月市が目の前に広がっています。曲線の川の奥に引き込まれそうな感覚を覚えさせてくれる素晴らしい作品です。

●白簾史朗賞 (1点)

「赤富士上空」(百蔵山) 村上 敏幸 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和3年8月20日 5:18]

カメラ [Nikon D810]

レンズ [80-400mm]

フィルター [PL]

シャッタースピード [1/13 秒] 絞り [F16]



【講評】

何層にも重なった傘雲と赤富士が目にと強烈に飛び込んでくる作品です。この千載一遇のチャンスを安定した構図で素直に表現できていると思います。好条件の光景に出会った時は、小細工などせず、ストレートに撮影するだけで、鑑賞者に感動を伝えることができると思います。

●特選 (4点)

(自由部門) 「アー・ヤットサー」(大月二丁目周辺) 長谷川 正光 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和6年8月3日 20:21]

カメラ [Canon EOS 5DSR]

レンズ [24-105mm(40mm)]

フィルター [なし]

シャッタースピード [1/20 秒] 絞り [F9]



【講評】

市内の夏祭りの一場面だと思います。祭りの写真は、主役の人物が、背景の見物客に紛れてしまいがちですが、この作品はストロボを使い主役の方の迫力満点な表情を写し止め、バックの見物客は、スローシャッターでぼらすことと、露出不足の処理で目立たなくさせたことが功を奏して、素晴らしい作品が生まれました。

(自由部門) 「川霧に浮かぶ」(岩殿山) 高津 秀俊 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和2年10月20日 7:30]

カメラ [Nikon D850]

レンズ [70-200mm]

フィルター [PL]

シャッタースピード [1/10 秒] 絞り [F8]



【講評】

冬の冷え込みが強い日に、岩殿山よりの霧景ですが、地元にお住まいの地の利を活かされただけではなく、日頃何時でも撮影にでられるように、スタンバイ状態でいらっしゃる努力と行動力の賜物だと思います。

(秀麗富嶽十二景部門) 「雪雲流れて」 (高川山) 池田 浩樹 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和6年2月24日 8:40]

カメラ [Nikon D800]

レンズ [AF-S NIKKOR 24-85 F3.4-4.5G EDVR]

フィルター [C-PL]

シャッタースピード [1/20 秒] 絞り [F22]



【講評】

厳冬期の早朝、高川山からの光景ですが、手前の雪が付着した木々を前景に配置して、絞り込んでパンフォーカス効果を狙われた効果が十分に発揮されています。中景の町を覆う雪雲の流れのトーンが素晴らしく、この写真のグレードをアップさせていると思います。

(秀麗富嶽十二景部門) 「桜に包まれ」 (お伊勢山) 内藤 均 (山梨県南アルプス市)

種別 [デジタル]

撮影日時 [令和6年4月10日 7:42]

カメラ [ペンタックス K-1 Mark II]

レンズ [90mm]

フィルター [PL]

シャッタースピード [1/13 秒] 絞り [F29]



【講評】

お伊勢山のボリュームある桜の間から、富士を狙われた意図が十分に伝わってきます。中望遠レンズでの圧縮効果により桜の花のボリュームが増したのだと思われます。しかし、パンフォーカスを強力に得ようと絞り込んでいますが、絞り過ぎてかえってピントが少し甘いようです。

●入選 (10点)

(自由部門)「桜に包まれて」(岩殿山・丸山公園) 石井 晃 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和6年4月10日 9:30]
カメラ [Canon EOS 6D Mark II]
レンズ [Canon EF 70-200mm]
フィルター [PL]
シャッタースピード [1/20秒] 絞り [F20]



【講評】

岩殿山丸山公園の桜園からの晴天の山を仰ぎ見る光景ですが、桜の淡いピンクと岩殿山の岩場の木々の萌黄色のコントラストがおとなしい色合いになっています。派手さは控えめですが、この季節の魅力が十分に伝わってきます。

(自由部門)「歴史を支える」(猿橋) 高橋 正夫 (山梨県上野原市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和6年12月3日 12:12]
カメラ [Nikon D500]
レンズ [16-85mm (62mm)]
フィルター [なし]
シャッタースピード [1/80秒] 絞り [F8]

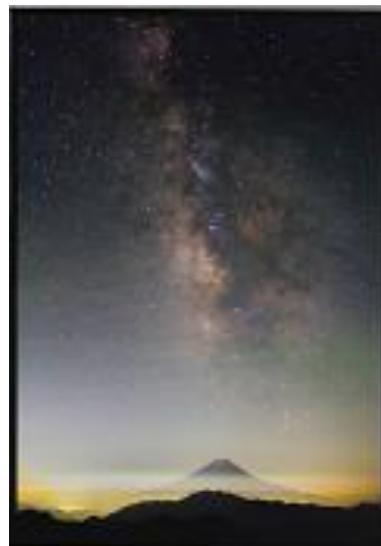


【講評】

秋に撮影された猿橋の写真ですが、橋の一部の造形的な部分に興味を持たれた一部を切り抜いてフレーミングされています。作者が何を伝えたいかが明白に伝わります。画面左部分に、黄葉を配置しての表現も季節感が伝わってきます。

(自由部門)「悠久の銀河」(ハマイバ) 山下 政明 (神奈川県秦野市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和3年6月11日 1:40]
カメラ [PENTAX K-1 II]
レンズ [DFA24-70 F2.8 (31mm)]
フィルター [なし]
シャッタースピード [30秒] 絞り [F2.8]



【講評】

デジタルカメラに移行されてから、星景の写真が多く応募されるようになりました。その中でこの作品は、富士の雄姿のトーンが街明かりの上に浮かぶようで、おしゃれに感じました。前景の黒い稜線を入れたことで、画面が引き締まり、奥行き感も感じられます。

(自由部門)「夏祭り」(大月東小学校) 菊地 和夫 (山梨県上野原市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和6年8月3日 17:27]
カメラ [フジ X-T4]
レンズ [XF18-135 F3.5-5.6]
フィルター [なし]
シャッタースピード [1/680秒] 絞り [F8]



【講評】

デジタルカメラが主流になり、カメラ内機能で赤色のみを残して後はモノトーンで表現する手法を利用されたと思います。むやみに何でも効果があるとは思いませんが、この場面では、鼻緒、着物の裏地、口紅等赤を差し色として、効果的に表現されていると思います。

(自由部門)「古より変わらぬ月」(猿橋) 渡邊 綾子 (山梨県甲府市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和4年8月15日 21:50]
カメラ [オリンパス]
レンズ [12-45mm]
フィルター [なし]
シャッタースピード [記載なし] 絞り [記載なし]



【講評】

月夜の猿橋の神秘的な雰囲気を感じる作品です。シンプルな要素のみを浮かび上がらせる手法を利用されたことが、この表現に繋がり、魅力ある作品になりました。

(秀麗富嶽十二景部門)「皐月の霊峰」(雁ヶ腹摺山) 石井 晃 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和6年5月30日 8:30]
カメラ [Canon EOS 6D Mark II]
レンズ [Canon EF 70-200mm]
フィルター [PL]
シャッタースピード [1/100 秒] 絞り [F10]



【講評】

皐月晴れの日、前景に緑の木々を配置して何気ない写し方ですが、気分爽快になれる一枚です。やはり富士山の写真には、脇役としての雲の存在がいかに大事かが再認識させられる作品です。

(秀麗富嶽十二景部門)「ハマイバのツツジよ永遠に」(ハマイバ)
大須賀 孝之 (東京都練馬区)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和5年5月24日 7:12]
カメラ [Nikon Z5]
レンズ [NIKKOR Z 24-200mm F4-6.3]
フィルター [PL]
シャッタースピード [1/125秒] 絞り [F11]



【講評】

年に数日程しかない皐月晴れの日、前景に立派なツツジを配置して遠景の富士を望んでいます。一見平凡な写真と感じてしまいましたが、全ての要素が好条件なこの瞬間を1枚の作品として仕上げていくには、相当な努力と労力が影に隠れていると感ぜられます。

(秀麗富嶽十二景部門)「萌木の頃」(真木大峠) 原川 哲仁 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和6年5月15日 7:50]
カメラ [SONY α1 ILCE-1]
レンズ [SONY FE24-70 φ F2.8GM]
フィルター [なし]
シャッタースピード [1/160秒] 絞り [F11]



【講評】

大月市の真木大峠の萌黄・萌木の爽やかな日の1枚ですが、空高い薄雲に向かってスーと伸びる2本の木々が印象的です。日頃抱えていたストレスを、天高く運んでくれるようです。

(秀麗富嶽十二景部門)「焼ける雲」(大峠) 大戸 康世 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和6年12月4日 6:30]
カメラ [SONY α99]
レンズ [F4-5.6 70-300mm 70mm]
フィルター [PL]
シャッタースピード [1/6秒] 絞り [F16]



【講評】

この峠に何十回何百回足を運んで、カメラをセットしたのでしょうか？日頃の努力の末、この光景に出会った時、今までの苦労も何もかも忘れてしまったのではないのでしょうか。作者のワクワク感が伝わってきます。

(秀麗富嶽十二景部門)「積雪の向うに」(岩殿山) 高津 秀俊 (山梨県大月市)

種別 [デジタル]
撮影日時 [令和2年1月19日 6:45]
カメラ [Nikon D850]
レンズ [24-70mm]
フィルター [PL]
シャッタースピード [1秒] 絞り [F11]



【講評】

前景の雪が付着した木々に、朝の紅色の光線が徐々に当たってくる経過の中で、画面左下の一番手前の木々にまだ紅が射す前の一瞬に、作者は感動のピークを覚え、シャッターを切ったようです。作者の感性が光ります。